

単元 「B 器械運動（鉄棒運動）」

1 単元目標

- (1) 自己の能力に応じて鉄棒運動の技能を高め、技が円滑にできるようにする。
 - ア 自己の能力に応じて技を選択、習得し、それらの技を組み合わせ「上がる一回る一下りる」という連続した技ができるようにするとともに、演技を発表できるようにする。
 - イ 演技の構成は、まず、「上がる一回る一下りる」という構成を考え、それに既習の技をあてはめて低鉄棒又は高鉄棒で行うことができるようにする。次いで、それらの技の改善をしながら、演技の構成に修正を加えていくようにする。

(技能の内容)
- (2) 互いに協力したりして練習ができるようにする。また、器械・器具を点検し、安全に留意して練習や発表ができるようにする。

(態度の内容)
- (3) 自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。

(学び方の内容)

2 単元の評価規準

I 運動への関心・意欲・態度

器械運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるよう互いに協力して進んで練習に取り組もうとする。また、器械・器具を点検し、安全に留意して練習や発表をしようとする。

- ① 鉄棒運動の特性に興味を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。
- ② 自分が練習した後に、マットの位置などを調節するなど安全に気を配ろうとする。
- ③ 互いに協力し、補助をし合いながら、練習をしようとする。
- ④ 練習や発表では、お互いの技や演技のできばえの良さを認め合おうとする。

II 運動についての思考・判断

自分の能力に応じた技を習得するための課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や演技の構成、発表の仕方を工夫している。

- ① 自分の技能に応じた技を選択したり、組み合わせたりして技を円滑に行うための課題の設定をしている。
- ② 課題解決に必要な、練習の仕方を選んだり、見つけたりしている。
- ③ 課題の達成状況をとらえ、練習や発表の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。

III 運動の技能

鉄棒運動の特性に応じた技能を身に付けるとともに、その技能を高め、技を組み合わせで演技ができる。

- ① 習得した技を組み合わせ、「上がる一回る一下りる」という連続した演技ができる。
- ② 美しい姿勢と雄大性を表現し止まることなく演技ができる。
- ③ 技のできばえを改善したり、新たに技を加えたりして、演技内容に変化を加えることができる。

IV 運動や安全についての知識・理解

鉄棒運動の特性や技術の構造を理解するとともに、技の確かめ方、補助の仕方、練習の計画的な行い方、演技構成の仕方を理解し、知識を身に付けている。

- ① 鉄棒運動の技の系・技群・グループの構造、技の系統性や発展性について、言ったり書き出したりすることができる。
- ② 鉄棒運動の楽しみ方や学習の進め方、練習の仕方や場づくりの方法、練習計画の立て方、技のできばえの確かめ方について、具体例を挙げることができる。
- ③ 技の特徴や運動種目ごとの特性に合った演技構成の仕方、発表の仕方について、具体例を挙げることができる。

3 評価規準例「器械運動（鉄棒運動）」

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
I 関心・意欲・態度	<p>①鉄棒運動の特性に強い興味を持ち、自ら進んで楽しさや喜びを味わおうとしている。</p> <p>②仲間のためにマットの位置を調節するなど、自ら進んで器具の安全を確かめ、事故防止に努めている。</p> <p>③互いに協力し、積極的に正しく補助をし合いながら、練習しようとする。</p> <p>④練習や発表では、お互いの技や演技のよさを正しく指摘し、そのよさを認め合おうとする。</p>	<p>①鉄棒運動の特性に興味を持ち、楽しさや喜びを味わおうとする。</p> <p>②自分が練習した後に、マットの位置などを調節するなど、安全に気を配ろうとする。</p> <p>③互いに協力し、補助をし合いながら、練習しようとする。</p> <p>④練習や発表では、お互いの技や演技のよさを認め合おうとする。</p>	<p>①決められた回数の練習をすることができる。</p> <p>②指示されてマットの位置を調節するなど、安全に気を配ろうとする。</p> <p>③補助をしてもらいながら、練習しようとする。</p> <p>④練習や発表では、お互いの技や演技を見ようとしている。</p>
II 思考・判断	<p>①自分の技能に応じた技を選択したり、組み合わせたりして技を円滑に行うために見通しを持った課題の設定をしている。</p> <p>②課題解決に必要な練習の仕方を自ら進んで選んだり、見つけたりしている。</p> <p>③課題の達成状況をとらえ、練習や発表の仕方を自ら進んで見直したり、新しい課題を選んだりしている。</p>	<p>①自分の技能に応じた技を選択したり、組み合わせたりして技を円滑に行うための課題の設定をしている。</p> <p>②課題解決に必要な練習の仕方を選んだり、見つけたりしている。</p> <p>③課題の達成状況をとらえ、練習や発表の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。</p>	<p>①技を選択したり、組み合わせたりして課題を設定をしている。</p> <p>②教師や仲間の助言を受けて、課題解決に必要な練習の仕方を選んでいる。</p> <p>③教師や仲間の助言を受けて、課題や発表の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。</p>
III 運動の技能	<p>①習得したより多くの技を組み合わせ、 「上がる一回る一下りる」という連続した演技ができる。</p> <p>②美しい姿勢と雄大性を十分に表現し、止まることなく演技ができる。</p> <p>③技のよさを改善したり、新たに技を加えたりして、演技内容を豊かにすることができる。</p>	<p>①習得した技を組み合わせ、 「上がる一回る一下りる」という連続した演技ができる。</p> <p>②美しい姿勢と雄大性を表現し止まることなく演技ができる。</p> <p>③技のよさを改善したり、新たに技を加えたりして、演技内容に変化を加えることができる。</p>	<p>①習得した技を組み合わせ、演技ができる。</p> <p>②美しい姿勢と雄大性をある程度表現することができる。</p> <p>③技のよさを改善したり、新たに技を加えたりして、演技内容に少し変化を加えることができる。</p>
IV 知識・理解	<p>①鉄棒運動の技の系・技群・グループの構造、技の系統性や発展性について、説明できる。</p> <p>②鉄棒運動の楽しみ方や学習の進め方、練習の仕方や場づくりの方法、練習計画の立て方、技のよさの確かめ方について、説明できる。</p> <p>③技の特徴や運動種目ごとの特性に合った演技構成の仕方、発表の仕方について、説明できる。</p>	<p>①鉄棒運動の技の系・技群・グループの構造、技の系統性や発展性について、言ったり書き出したりすることができる。</p> <p>②鉄棒運動の楽しみ方や学習の進め方、練習の仕方や場づくりの方法、練習計画の立て方、技のよさの確かめ方について、具体例を挙げるることができる。</p> <p>③技の特徴や運動種目ごとの特性に合った演技構成の仕方、発表の仕方について、具体例を挙げるることができる。</p>	<p>①鉄棒運動の技の系・技群・グループの構造、技の系統性や発展性について、知っている。</p> <p>②鉄棒運動の楽しみ方や学習の進め方、練習の仕方や場づくりの方法、練習計画の立て方、技のよさの確かめ方について、知っている。</p> <p>③技の特徴や運動種目ごとの特性に合った演技構成の仕方、発表の仕方について、知っている。</p>

4 評価規準の評価観点例「器械運動（鉄棒運動）」

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
I 関心・意欲・態度	<p>①ア前向きに楽しみながら練習している。 イ練習をしている姿に熱意と高い意欲が感じられる。</p> <p>②ア自ら進んで器具の安全を確かめている。 イ自ら進んで安全マットの位置を調節するなど、事故防止に努めている。</p> <p>③ア積極的に補助をし合う。 イ補助で危険な状態を防止できるとともに、動きを誘導できる。</p> <p>④ア仲間の練習を見て、できばえをアドバイスする。 イ仲間と協力し合い、意欲的に練習している</p>	<p>①ア楽しそうに練習している。 イ練習をしている姿に意欲が感じられる。</p> <p>②ア器具の安全を確かめている。 イマットの位置を調節するなど、事故防止に努めている。</p> <p>③ア補助をし合う。 イ危険な状態を防止できる。</p> <p>④ア仲間の練習を見て、できばえを伝える。 イ仲間と協力し合い練習している。</p>	<p>①ア自分なりに練習している。 イ教師や仲間に促されて練習する。</p> <p>②ア指示されて器具の安全を確かめている。 イ指示されてマットの位置を調節するなど、安全に気を配ろうとする。</p> <p>③ア補助をしようとしている。 イ危険な状態がわかる。</p> <p>④ア仲間の練習を見ている。 イ仲間と練習している。</p>
II 思考・判断	<p>①ア自己の能力を最大限に引き出すための、技を選んで練習している。 イ常に練習の中から自分の課題を見つけている。</p> <p>②ア補助具などを、場面に応じて選び、有効に使っている。 イ練習方法に多くの工夫が見られる。</p> <p>③アできばえを客観的にとらえている。 イ練習方法に修正を加えながら、見通しを立てて取り組んでいる。</p>	<p>①ア自分にあった技を選んで練習している。 イ練習の中から自分の課題を見つけている。</p> <p>②ア補助具などを有効に使っている。 イ練習方法に工夫が見られる。</p> <p>③アできばえをとらえている。 イ練習方法に修正を加えている。</p>	<p>①ア技を選んで練習している。 イ時々自分の課題を見つけている。</p> <p>②ア補助具などを使っている。 イ練習方法に工夫を加えることもある。</p> <p>③ア教師や仲間に聞いて、できばえをとらえている。 イ教師や、仲間の助言により、練習方法に修正を加えている。</p>
III 運動の技能	<p>①ア構成に工夫して、連続的な技を作り発表することができる。 イ技の数がかなり多い。</p> <p>②アつま先まで神経が行き届き、振幅も極大に近い。 イ停止しないで、なめらかに技がつながる。</p> <p>③ア繰り返し練習し、技を安定させ、雄大さも身につけている。 イ今までできなかった技をより多く習得している。</p>	<p>①ア連続的な技を作り発表することができる。 イ技の数が多。</p> <p>②ア大まかにつま先が伸び、振幅も大きい。 イ小さな停止はあるが、全体としてはなめらかに技がつながる。</p> <p>③ア繰り返し練習し、技を安定させている。 イ今までできなかった技を多く習得している。</p>	<p>①ア技を組み合わせて発表することができる。 イ技の数が決められた数。</p> <p>②ア振幅が小さく、姿勢欠点が多い。 イ演技中に停止が多い。</p> <p>③ア繰り返し練習し、技の成功率を上げている。 イ今までできなかった技を習得している。</p>
IV 知識・理解	<p>①ア技術ポイントや運動の特性を説明できる。</p> <p>②ア技のできばえや仲間との学習の進め方などを、自己評価・相互評価できる。 イ自分にあった練習方法を学習カードに詳しく書き出している。</p> <p>③ア演技発表の進め方を理解し、進行役となっている。</p>	<p>①ア技術ポイントや運動の特性を自分なりにまとめている。</p> <p>②ア技のできばえや仲間との学習の進め方などを、自己評価できる。 イ自分にあった練習方法を学習カードに書き出している。</p> <p>③ア演技発表の進め方を理解し、準備などしている。</p>	<p>①ア技術ポイントや運動の特性を仲間の助言を受けてまとめている。</p> <p>②ア技のできばえなどを自己評価できる。 イ自分にあった練習方法を学習カードに仲間に教えてもらいながら書き出している。</p> <p>③ア演技発表の進め方を理解し、指示されて動いている。</p>

5 指導と評価の計画例「器械運動（鉄棒運動）」＜2年生（15時間）＞

時間	ねらい・生徒の学習の活動	具体の規準	学習活動における評価の観点
はじめ (1時間)	<ol style="list-style-type: none"> 鉄棒運動の特性や学習の仕方を理解する。 自分やグループの課題を決める。 学習カードや学習資料の活用の仕方を理解する。 	<u>I—①</u> 行動観察 <u>II—②</u> 学習カード <u>IV—④</u> 学習カード	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒運動の特性に興味を持ち、楽しさや喜びを味わおうとする。 自己の課題を見付けようとする。 学習カードや学習資料の活用方法を理解しようとする。
なか1 (4時間)	<p>ねらい1（今ある能力で工夫）</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題の技群からできる技を選び練習をする。 お互いに見せ合ったり、補助をしたりして教え合う。 できる技をつなげて連続しておこなう。 安全に行えるようにお互いに補助をしたり、マットや器具の点検をおこなう。 	<u>II—②</u> 行動観察 <u>II—③</u> 行動観察 <u>I—③</u> 行動観察 <u>III—①</u> 学習カード <u>I—②</u> 行動観察	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見付けて練習しようとする。 技のポイントを見付けようとする。 お互いに協力して補助し合いながら練習しようとする。 習得した技を組み合わせで連続した技ができる。 マットの位置を調節するなどして、安全に気を配ろうとする。
なか2 (4時間)	<p>ねらい2（高まった能力に合わせて）</p> <ol style="list-style-type: none"> 習得した技をより美しく安定して行えるようにする。 さらに難しい課題に挑戦する。 「上がる一回る一下りる」と連続した技ができるようにする。 技の習得や演技を発表することで鉄棒運動の楽しさを深める。 	<u>III—②</u> 行動観察 <u>IV—①</u> 学習カード 行動観察 <u>III—③</u> 行動観察 <u>I—①</u> 学習カード	<ul style="list-style-type: none"> 美しい姿勢と力強さを表現することができる。 多くの技についてポイントや練習方法を知っている。 技のできばえを改善したり、新たに技を加えたりして演技の内容をかえることができる。 鉄棒運動の特性に興味を持ち、楽しさや喜びを味わおうとする。
なか3 (4時間)	<p>ねらい3（さらに進んだ能力で）</p> <ol style="list-style-type: none"> 多くの技を連続して演技を構成する。 技のできばえを理解してお互いに指導できる。 採点方法を理解して公正に演技を採点できる。 	<u>III—①</u> 行動観察 <u>I—③</u> 行動観察 <u>IV—②</u> 学習カード <u>IV—③</u> 学習カード 小テスト	<ul style="list-style-type: none"> 新しく習得した技を組み合わせで連続した技ができる。 お互いに協力して補助しあいながら練習しようとする。 審判法を理解して、仲間の演技の良し悪しがわかる。
まとめ (2時間)	<p>自己の学習カードの記録をてががりにしながら、学習を振り返り、学習全体のまとめをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 楽しかったこと、楽しかったことやその理由。 活動の進め方や工夫のしかたはどうだったか。 技能はどう伸びたか。 	学習カードやテスト項目、さらに毎日の評価記録簿から総括的な評価をする。	行動観察などから関心・意欲・態度の項目として次のことを評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 学習の準備や片付けをしていたか。 鉄棒運動に適した準備運動を行おうとしていたか。 健康・安全に留意して練習・発表をしていたか。 正しい補助の仕方について理解して、進んで行おうとしていたか。

評価観点	方法	具体の規準	項目番号	観点別評価項目(具体例)	評価結果			備考		
					評価	〇&×	特記事項	評価点	評価倍率	割合%
I 関心・意欲・態度	行動観察	I-①	1	楽しそうに練習している。	A	B	C		× 1	25%
		I-①	2	練習をしている姿に意欲が感じられる。	A	B	C		× 1	
		I-②	3	器具の安全を確かめている。	A	B	C		× 1	
		I-②	4	マットの位置を調整するなど、事故防止に努めている。	A	B	C		× 1	
		I-③	5	危険な状態を防止できる。	A	B	C		× 1	
		I-③	6	補助をしあっている。	A	B	C		× 1	
		I-④	7	仲間の練習を見て、できばえを伝える。	A	B	C		× 1	
		I-④	8	仲間と協力し合い練習している。	A	B	C		× 1	
	学習ノート	I-①	9	学習ノートに意欲的な感想が記入してある。	A	B	C		× 1	
合計										
II 思考・判断	行動観察・対話	II-①	10	自分にあつた技を選んで練習している。	A	B	C		× 1	25%
		II-①	11	練習の中から自分の課題を見つけている。	A	B	C		× 1	
		II-②	12	練習の方法に工夫が見られる。	A	B	C		× 1	
		II-②	13	補助具などを有効に使っている。	A	B	C		× 1	
		II-③	14	練習方法に修正を加えている。	A	B	C		× 1	
		II-③	15	できばえを客観的にとらえている。	A	B	C		× 1	
	学習ノート	II-②	16	学習ノートに自己の課題が記載されている。	A	B	C		× 2	
合計										
III 運動の技能	行動観察	III-①	17	連続的な技を作り発表することができる。	A	B	C		× 1	25%
		III-①	18	技の数が多。	A	B	C		× 1	
		III-①	19	上がる一回る一下りという演技の構成ができている。	A	B	C		× 1	
		III-③	20	繰り返し練習し、技を安定させている。	A	B	C		× 1	
		III-③	21	今までできなかった技を多く習得している。	A	B	C		× 1	
	技能テスト	III-②	22	つま先が伸び、振幅も大きい。	A	B	C		× 1	
		III-②	23	小さな停止はあるが、全体としてはなめらかに技につながる。	A	B	C		× 1	
		III-②	24	安全に技を連続させることができる。	A	B	C		× 1	
合計										
IV 知識・理解	行動観察	IV-①	25	技術ポイントや運動の特性を自分なりにまとめている。	A	B	C		× 1	25%
		IV-②	26	技のできばえや仲間との学習のしかたを自己評価できる。	A	B	C		× 1	
		IV-③	27	演技発表の進め方を理解し、準備などを行っている。	A	B	C		× 1	
	学習ノート	IV-②	28	自分にあつた練習方法を学習ノートに書き出している。	A	B	C		× 1	
		IV-③	29	技のポイントや練習方法をノートに書き出している。	A	B	C		× 1	
	テスト	IV-全	30	小テスト	A	B	C		× 10	
合計										

総合計

総時間数 () 時間 、 欠席時間数 () 時間 、 見学時間 () 時間

特記事項

評価シート 器械運動(鉄棒運動) 2年生(15時間)

総時間数()時間, 欠席時間数()時間, 見学時間()時間

評価観点		I 関心・意欲・態度									II 思考・判断							III 運動の技能							IV 知識・理解						合計 得点								
評価方法		行動観察									行動観察							行動観察							行動観察														
具体的規準		I-①	I-①	I-②	I-②	I-③	I-③	I-④	I-④	I-②	II-①	II-①	II-②	II-②	II-③	II-③	II-②	III-①	III-①	III-①	III-③	III-③	III-②	III-②	III-②	IV-①	IV-②	IV-③	IV-②	IV-③		IV-③	IV-①						
項目番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		30							
観 点 別 評 価 項 目 (具 体 例)		I 小計									II 小計							III 小計							IV 小計						合計 得点								
		倍率									倍率							倍率							倍率														
実施月/日																															合計 得点								
No.	組・番	氏名	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/							
1																																							
2																																							
3																																							
4																																							
5																																							
6																																							
7																																							
8																																							
9																																							
10																																							
11																																							
12																																							
13																																							
14																																							
15																																							
16																																							
17																																							
18																																							
19																																							
20																																							

体育授業 記録シート

年 組		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
種目名()	実施月日	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
No.	組・番氏	評価項目番号														
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																
31																
32																
33																
34																
35																
36																
37																
38																
39																
40																

観点別評価項目例「器械運動(鉄棒運動)」

2年生(15時間)

評価観点	方法	具体の規準	項目番号	観点別評価項目(具体例)
I 関心・意欲・態度	行動観察	I-①-1	1	楽しそうに練習している。
		I-①-2	2	練習している姿に意欲が感じられる。
		I-②-3	3	器具の安全を確かめている。
		I-②-4	4	マットの位置を調整するなど、事故防止につとめている。
		I-③-5	5	危険な状態を防止できる。
		I-③-6	6	補助をしあっている。
		I-④-7	7	仲間の練習を見て、できばえを伝える。
		I-④-8	8	仲間と協力し合い練習している。
		I-④-9	9	学習ノードに意欲的な感想が記入している。
学習ノート	I-①	9		

II 思考・判断	行動観察	II-①-10	10	自分に合った技を練習している。
		II-①-11	11	練習の中から自分の課題を見つけている。
		II-②-12	12	練習の方法に工夫が見られる。
		II-②-13	13	補助具などを有効に使っている。
		II-③-14	14	練習方法に工夫が見られる。
		II-③-15	15	できばえを客観的にとらえている。
学習ノート	II-②	16	学習ノードに自己の課題が記載されている。	

III 運動の技能	行動観察	III-①-17	17	連続的な技を作り発表することができる。
		III-①-18	18	技の数が多い。
		III-①-19	19	上がる一回る一降りという演技の構成ができていく。
	技能テスト	III-③-20	20	繰り返し練習し、技を安定させている。
		III-③-21	21	今までできなかった技を多く習得している。
		III-②-22	22	つま先が伸び、振幅も大きい。
III-②-23	23	小さな停止はあるが、全体としてはなめらかに技につながる。		
III-②-24	24	安全に技を連続させることができる。		

IV 知識・理解	行動観察	IV-①-25	25	技術ポイントや運動の特性を自分なりにまとめている。
		IV-②-26	26	技のできばえや仲間との学習の仕方を自己評価できる。
		IV-③-27	27	演技発表の進め方を理解し、準備などを行っている。
	学習ノート	IV-②-28	28	自分に合った技を練習方法を学習ノードに書き出している。
		IV-③-29	29	技のポイントや練習方法をノードに書き出している。
テスト	IV-全	30	小テスト。	

総時間数 () 時間 , 欠席時間数 () 時間 , 見学時間 () 時間